

司式 杉山昌樹牧師

奏楽 杉山友実子姉

前 奏

開 会 招 詞 詩編96編1-4節

* 賛 美 歌 1:1 (ソングシート)

1. われら主をたたえまし、きよき御名あがめばや、くる日ごとほめうたわん、

神にまし王にます 主のみいつたぐいなし。 アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。 主イエス・キリストの御名によって。アーメン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 39:1

1. わが身の望みは ただ主にかかれり、主イエスの外には 依るべき方なし。

(おりかえし) わが君イエスこそ 救いの岩なれ、救いの岩なれ。アーメン

共同の祈禱 6 使徒信条

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。われは、その独り子、われらの主イエス・キリス

トを信ず。主は、聖霊によりて宿り、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを
受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちよりよみがえり、天
に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審き
たまわん。われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪の赦し、からだのよみがえ
り、とこしえの命を信ず。 アーメン。

献 金 (黒)・(赤) 大会謝恩日 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

聖書朗読 詩編32編1-8節(旧約 p.862)

コロサイ3章12-17節(新約 p.371)

説教・祈祷 「赦されている喜び」 杉山昌樹牧師

* 賛美歌 82:1、2

1. 主イエスの深い愛にふれて 私にも愛が生まれ 主イエスを信じた時から 私に歌が生まれた
(おりかえし) いつまでも歌いつづけよう 主の愛の広さ深さを 十字架に命を捨てた その愛の大
きさを

2. 人知れず悩む心にも ころもにあえぐ時にも
主の愛の不思議な力で 喜びの歌が生まれる (おりかえし) アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 66

世をこぞりて、ほめたたえよ みさかえつきせぬ、あまつかみを。アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 古澤兵庫長老 (司会・受付 次週：門脇献一長老)

本日 受付 1階：藤井牧子・大日南隆夫執事 2階：大日南信也執事 /ZOOMホスト・録音：
大日南信也

次週 受付 1階：佐藤紀子・大日南信也執事 2階：古澤迪子執事 /ZOOMホスト・録音：森
川莞太

※ グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります。

コロサイ3：12-17「赦されているものの喜び」

教会の現場で

続けてコロサイ書を読んでいます。すでに二週前だったでしょうか。このコロサイ書の3章から実践編です。ということをお話ししました。私たちはすでにキリストの民とされているということを確認した2章までに続いて、そのようなキリスト者としてどのように生きるのか、それをかなり具体的に示しているのが3章でした。そして先週の所では、地上的なものを脱ぐ、ということが言われました。それと対をなすように語られておりますのが、今日の所です。このところではわたしたちは新しくキリストを着るのです。例えば、12節では「キリスト」という言葉は出てきませんが、「身につけなさい」とはつきりとした命令が語られています。古いものを脱ぎ捨て、良いものを身につけていく、そうして毎日を着実に生きていく、そのような生き方が示されているのです。

平和を創る

ところで早くも9月第二週を迎えましたが、私たちの教会では8月を特に平和を覚える月にしてあります。もちろん、戦争とりわけあの悲惨であった太平洋戦争を覚える意味合いがあります。一方で、私たちキリスト者は平和を創るものということが言われます。マタイによる福音書5章の八つの幸いの教えの七番目にあります「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」という言葉に生きるのです。私たちキリスト者は、平和を実現する、平和を創るものである、そこに幸いがある、とイエス様は言われます。その場合に私たちはこの世界全体の平和ということを意識するべきかもしれません。世界中に平和を実現していくというのは壮大な話です。けれどもそれはほら話のたくいではありません。本気で取り組むべきことです。ただし、そのような活動の始まりは、とても身近なところ、私たち自身、この教会の私とあなた、この関係からなのだ、このようにパウロはこの手紙で教えてくれているのです。

一つの体

それは15節で「この平和に与らせるためにあなた方は招かれて一つの体とされたのです」とありますところから分かります。私たちはイエス様によって招かれたものだ、ということがまず言われています。私たち一人一人が神様に呼ばれている、イエス様によってこのところに、信仰生活に招かれているというのです。さらに言いますと、この招かれたものとは、このところの12節で言われている言葉がそのまま当てはまります。冒頭の部分を読んでみます「あなた方は神に選ばれ、聖なるものとされ、愛されている」これが私たちです。私たちの側から言いますと、私たちは神様に愛されているものです。それも、一人一人違った個性をもっていて、そのような私たちのあり方全部を含めて神様が愛してくださっているのです。先週読みました11節では、およそ異なった性質をもった四つの組み合わせの人たちの名前が挙げられていました。「ギリシア人とユダヤ人」、「割礼を受けたものと受けていないもの」というようにあるところですが、詳しくはお話ししませんが、ここで取り上げられているのは対照的な人たちです。場合によっては相いれない価値観を持った人たちです。しかし神さまはその一人一人を愛してくださっている、しかも、このようなかなり違った人たちを一つの体となるように招いてくださっているというのです。そしてこの場合には異なっているということが大切です。私たちはそれぞれ異なっているのです。違いがあるのです。けれども、違いがある同士で平和に生きていく、一つの体となっていくようにと招かれているのです。

キリストの平和の支配

その場合に、この「招かれた」、ということがもう一つ重要な点です。私たちは、勝手に集まってきたのではないのです。もちろん、私たちは、ある時、キリスト教への関心が与えられ、きっかけが与えられ、自分の意思で教会に来たのですが、一方で、そのようにして神様が私たちを、時に適って教会に集められたとも言えます。その意味で私たちは集められたもの達です。受け身なのです。ですから私たちが教会で平和を創る、といった場合でも、教会を会社組織のようにして、自分達の意味で、自分達の力で、平和にしていくのではないのです。組織とはこういうもの、効率の良い組織運営とはこういうも

の、というように考えて、理想の組織を自分たちの力で造り上げよう、ということとはたぶん違ったことが教会で起きていく、という見通しがここでは語られているのです。それで、こんなことを言いますと怒られるかもしれませんが、わたしたちがお互いに違っていること、感覚が違ったり、時に意見が合わなかったり、といったことを神様は楽しんでおられるのではないか、あえてそうしておられるのではないか、と思えるのです。むしろ、いろいろ違う、えー、何でそうなるのか、とお互いに感じてしまうところがあるかもしれない私たちの心が、キリストの平和で支配されていくこと、イエス様の生き方が、私たちに支配していくこと、これが求められているのです。

分があっても

そしてそれはとても具体的な事柄です。人間関係そのもののあり方、生き方に関わることです。それを示しておりますのが12、13節の言葉です。ここをあらためて読みます。「あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださいったように、あなたがたも同じようにしなさい。」。ここでは、何といても五つの徳目とでもいうべき言葉が目を引きます。「憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容」という言葉です。これは皆一体的にイエス様のあり方を示しているように思われます。しかし、このような言葉について考える前に、まずは一つの言葉に目を留めたいのです。それは、「責めるべきことがあっても」という言葉です。これは自分に直接関係のある人間関係のことです。自分の関わっている人のしていることがおかしいのです。これは何とかしたほうがいい、と感じられるのです。或いは具体的に何かの被害がすでにあるのです。自分の側に分があるのです。しかし、そこで赦せ、というのです。もっと言えば、お互いに赦し合え、というのです。まさに、怒りと憎しみが生まれかねないところで、赦し合う関係を創れ、このように言うのです。その根拠はただ一つです。それは「主があなた方を赦してくださいったように」です。

キリストの赦し

ところで、ルカによる福音書にはこんな言葉があります。「イエスはお答えになった。「なんと信仰のない、よこしまな時代なのか。いつまでわたしは、あなたがたと共にいて、あなたがたに我慢しなければならないのか。あなたの子供をここに連れて来なさい。」(9:41)。イエス様が一部の弟子たちを連れて山に登っておられたときの出来事です。山の上でモーセやエリヤと聖なる会議を開き、弟子たちがその様子を見ていたあの出来事の後、山から降ってきますと、下に残した弟子たちが悪霊を追い出す力を与えられていたはずにもかかわらずそれをする事ができずにいた、その場面を描いた箇所です。そこでイエス様の口をついて出た言葉で、これだけを読みますとちょっと冷たいのでは、と思えますが、しかし、実際にはイエス様は、これで弟子たちを見捨てられたのではありませんでした。むしろ、イエス様は、十字架に至るまで、あるいはご復活に際しても、信仰の薄い弟子たちを「我慢」し続けたのです。イエス様のなさりたいことを理解できずにいる弟子たちをいつも受け入れ、そしてご自身を裏切ろうとする弟子とすら食事を共にされました。また弟子たちだけではなく、ご自身を十字架につけた人たちを、「彼らをお赦し下さい。彼らは自分が何をしているのか知らないのです」(ルカ23:34)ととりなされたのです。

異なる人を受け入れ合う

これがイエス様の生き方です。これがイエス様の平和を創りだす歩みです。そして、イエス様は、このようにして、私たちをも忍耐して、受け入れてくださったのです。いや、今この時も受け入れてくださっているのです。先ほど、五つの徳目について少しだけ触れましたけれども、その最後の「寛容」と訳されました言葉は「簡単に怒らないこと」という意味もあるようです。さらに、13節の互いに忍び合いとありますけれどもこれも、「我慢をする」ですとか「耳を傾ける」という意味があります。お互いのことなのです。なんで、と思うところで、しかし、イエス様のして下さっていることを、自分もするのです。ひどい話だ、と思うところでもなお、聞いてみるのです。それも一度限りではなく、何度でもです。丁度、イエス様がペテロに「何度赦すべきですか、七度ですか」と問われて、「七の七十倍でも」(マタイ18:22)と言われたように、このところで語られている忍耐は、何年間にも、何十年間にもわ

たるものです。それは、毎日のことであり、毎週のことです。そのような息の長い忍耐において、私たちは、イエス様の平和が私たちの心を支配するという言葉の通りに生きていくものに変えられていくのです。

愛を身に着ける

そのようにして、わたしたちがイエス様と同じ道を歩み始めます時に、具体的にイエス様を着ること、愛を身に着けることが現実のものとして姿を現していきます。14節には愛を身につけなさい、という命令がありますけれども、それはこの意味です。さらにそれに続いて、愛はすべてを完成させる絆ですとありますけれども、これもまた、忍耐と別々のことではなく、むしろ、わたしたちが互いをしのび合うときに、私たちは互いに結び付けられることが起きてくる、という意味です。そして、そのようにしてわたしたちが結び付けられるということこそ、15節で言われております、一つの体とされた、という言葉の実現です。こうして私たちは、イエス様のお姿を現す、本物の教会を日々生きていくこととなります。

互いに教え歌う

それで、今日はあまり触れられませんでしたけれども、16、17節で語られておりますことは、今まで確認しましたような生き方、イエス様の生き方をわたしたちが引き継いでいくときに、私たちの教会が本当にイエス様の体を現わしていくときに、具体的に何が起きるかを描いている箇所です。例えば、ここでは教えと戒め、ということが言われます。あるいは、様々な賛美によって神様をほめたたえることが言われます。これは言うまでもなく礼拝や様々な集会のことです。そのようなわたしたちが教会で集まってまじわりを持つときに何が起きるのかと言いますと「キリストの言葉があなた方の内に豊かに宿る」ようになるのです。ただイエス様の語って下さった言葉を暗記して覚えているのではなく、イエス様の言葉が、その生き方が私たちの内にあって、私たちを導いていくのです。

赦されているものの喜び

それが、17節で書かれております「何を話すにせよ、行うにせよ、主イエスの名によって行おう」ということです。そして、そこには当然ですが賛美が生まれるのです。感謝が生まれるのです。イエス様と一緒に生きる私たちに、神様への喜びの歌が生まれるのです。

祈り

父なる神様。聖名を賛美します。あなたは私たちを一つの体となるように招いてくださっておりますから感謝します。そのためにあなたは私たちにキリストという新しい衣を着せ、キリストに似たものとして、互いを受け入れ合い、美しいまじわりと平和にいけるようにと招いてくださっております。どうぞ、わたしたちが、忍耐することを学び、その中に生き、地上において真のキリストの体を現わしていくことができますように。また、この週の歩みにおいても、平和を創るものとして生きられますように励ましていてください。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。